

平成18年4月21日

財団法人 2005 年日本国際博覧会協会

会 長 豊田章一郎 様

岩城正光（特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネットワーク・あいち理事長）
榎田勝利（特定非営利活動法人愛・地球博ボランティアセンター(設立中)理事長）
延藤安弘（特定非営利活動法人まちの縁側育み隊代表理事）
大西光夫（特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ理事長）
小川巧記（元(財)2005年日本国際博覧会協会市民参加プロデューサー）
川嶋 直（社団法人日本環境教育フォーラム専務理事）
高野雅夫（エコプラットホーム東海代表）
中野民夫（元地球市民村事務局長兼 NPO チームマネジャー）
萩原喜之（特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会代表理事）
モンテ・カセム（愛・地球博市民プロジェクト・ファシリテーター、立命館アジア太平洋大学学長）

要 望 書

「愛・地球博（愛知万博）」は市民参加万博を掲げ成功裡に終了しましたが、この万博には多くのNPO・NGOや市民セクターが企画・運営に参画し、また多くのボランティアが活躍しその成功に貢献しました。

こうした、愛知万博におけるNPO・NGO等市民セクターの活動の評価・検証やその成果の継承・発展については、企画・運営に参加したNPO・NGO等市民セクター関係者自らが総括し、市民セクターにとって、今後の活動や発展につながる具体的な成案や成果を作っていくことが重要だと考えています。

万博の理念や成果の継承、万博剰余金の使いみち等を検討する「2005年日本国際博覧会基本理念継承発展検討委員会（以下、検討委員会と略）」（3月22日）において、剰余金が129億円であること、国と地元等に等配分すること、使いみちとして、NPO、NGO、ボランティアの活動や組織化への助成金を交付すること、などが提案されたと伺っています。また、関係者ヒアリング（1月25日）においては、愛知県が「市民の社会活動を支援する基金の造成」等を要望されたと伺っています。そして、来る4月27日に検討委員会において最終的な提案を決定されると伺っております。

私たち愛・地球博で地球市民村や市民プロジェクト、また様々なボランティア活動に取り組んだNPO・NGO等市民セクターの関係者有志として、愛知万博の理念と成果の継承発

展とNPO・NGO等市民セクターの発展を願う立場から以下のことを配慮頂きますようお願い致します。

記

- 一、愛・地球博の目的実現のために、その理念や成果の継承・発展のために全力をあげていただきたい。愛・地球博の成功について、NPO・NGO等市民セクターの参加協力があったことを高く評価し、その理念と成果の継承・発展のために積極的に尽力して頂きたい。
- 二、市民参加万博の成果継承について、NPO・NGO・ボランティアに助成金を交付するとの提案を歓迎します。ぜひ、NPO・NGO等市民セクターの発展・成長につながる21世紀万博の転換点となった万博にふさわしいメモリアルな規模と仕組みのものを作って頂きたい。
- 三、助成金の仕組みと運営については、NPO・NGO等市民セクターの意見を聴き取り、市民参加型・官民協働型で進めて頂きたい。
- 四、助成金の対象団体や事業は、万博に参加・貢献した団体や事業に限ることなく、万博の理念や成果を継承発展させうる事業や団体にも門戸を広く広げて頂きたい。
- 五、助成金による直接的効果だけでなく、どのような事業が評価されるべきか、どのようにすればより良く効果的な事業が実施できるのか、などについて、NPO・NGO等市民セクター自身が学びあい、その実行力や組織力を向上発展させることができる運営にして頂きたい。

以上

《付記事項》

なお、私たちが議論しておりますあるべき助成金についての討議資料を添付致します。お目通し頂けると幸いです。

また、この要望・アピールには、曾田忠宏氏（特定非営利活動法人愛・地球博ボランティアセンター（設立中）副理事長）、ブイ・チ・トルン氏（愛・地球博地球市民村アドバイザー）も賛同頂いております。

特定非営利活動法人愛・地球博ボランティアセンターは、現在設立申請中の団体です。